

英語劇の魅力を 味わおう！

青柳有季 Aoyagi Yuki
(東京学芸大学附属小金井中学校)



2007年度都大会出場作品 As It Is in Heaven

週に2時間の「3年選択ドラマ」の時間において、毎年20人から30人の生徒たちと20分以上30分未満の「英語劇」を創作しています。テーマは「英語劇の魅力を味わおう！」で、講座を開設してから8年目を迎えました。本校の英語劇の特徴は、最初の年を除いてミュージカルスタイルをとっています。それは、生徒たちは歌が大好きで、「歌は生きているセリフ」であるとみなしているからです。英語劇を通した生徒の成長と変容ぶりには目を見張るばかりです。なので、毎年新しい生徒たちと、新しい気持ちで、新しいオリジナル脚本で臨んでいます。

今までの英語劇作品と、参考にした題材は次のとおりです。

◎ 2001年 Sister Clarence

参考：映画「天使にラブソングを」(アメリカ)

◎ 2002年 The Sound of Music

参考：映画「サウンド・オブ・ミュージック」(アメリカ)

◎ 2003年 Elcos

参考：劇団四季「エルコスの祈り」(日本)

◎ 2004年 Sister Clarence 2004

参考：映画「天使にラブソングを」(アメリカ)

◎ 2005年 Chorus

参考：映画「コーラス」(フランス)

◎ 2006年, 2007年 As It Is in Heaven

参考：映画「歓びを歌にのせて」(スウェーデン)

本校の英語劇は授業の一環に位置づけられているので、次のような留意点を設けています。

- (1) 全員が演技者でありセリフはおよそ同量である。
- (2) 小道具や衣装は必要最低限とし、舞台上の人間だ

けにそのドラマ性が焦点化される劇を目指す。

- (3) 音響や照明は分担制にする。

また、私は英語劇のメリットを次のように考えています。

- (1) ゴールを目指し仲間と切磋琢磨していくなかで表現することの大切さを学んでいくことができる。

⇒本校のゴールは、①学芸発表会(10月)、②北多摩地区予選(11月)、③都大会(12月)、④附属学校カーニバル(3月)です。

- (2) 「話す」「聞く」活動の強化が図れる。

⇒現実的な言語使用のなかで、言語機能を正しく理解し適切に表現する力を伸ばしていくことができると同時に、正しいイントネーションや発音、そして観客が聞き取りやすい声の大きさなどの習慣形成ができます。また、相手のセリフに応じた演技や間が要求されることで、「聞く力」も同時に強化していくことができます。

- (3) 非言語手段の強化が図れる。

⇒言葉だけではなく、身振りや身体の向きなどの非言語手段を用いた効果的な表現方法を互いに学ぶことができます。効果音に合わせるとより動きに表情が出てきます。

現在、通常の授業を少人数制で実施している学校が多い状況です。そこで、少人数からでもゴール(舞台発表)を設定して英語劇を実施してみたいはかがでしょう。そこで手始めにお勧めしたいのは次の本です。ぜひ、挑戦してみてください。

東京都中学校英語教育研究会編(2004)『中学生の楽しい英語～Let's Enjoy Some Plays～』秀文館(KTC中央出版発売)